

## 2025年度外部評価委員会における主要意見及び国環研の考え方（第6期中長期目標期間事前評価）

委員会の主要意見		主要意見に対する国環研の考え方
現状について の評価・質問など	8分野・8プログラムから5分野・3統合型研究プログラムへの再編は、包括的な取組が求められる社会の要請にかなった適切な再編であるとともに、外部の方々からも国環研の取組内容がわかりやすくなると思われる。	評価いただきありがとうございます。今後は統合型研究プログラムを軸に、研究成果の社会実装と政策連携をさらに強化してまいります。
	環境研究共創拠点構想は、環境データと知のハブとして研究基盤と外部連携を強化し、社会変革を支える中核拠点となる可能性がある。	「外部研究者との連携推進」をより意識し、科学的知見を社会変革につなげる「知のハブ」として機能強化を図ってまいります。
	AIや社会経済との関係（社会科学との接続）、宇宙環境など新規・拡張領域の位置づけは相対的に弱く見える。	ご指摘のとおり、環境課題は社会経済構造や新技術と密接に関係しており、AI・社会・経済との融合は重要な課題です。次期計画では環境研究共創拠点を中心にデータ科学の活用を進展させるとともに、環境研究の対象領域を段階的に拡張できるよう、努めてまいります。
今後への期待など	プログラム再編は良いと思うが、環境研究の基盤としての長期観測とアーカイブの継続と正常発展を期待する。また同時に、喫緊の課題に先鋭的に取組むことも重要であり、プログラム内のかじ取り、リーダーシップとその透明性が求められる。	長期モニタリングやデータの蓄積・公開は本研究所の基盤的使命であり、継続的な維持・高度化を進めてまいります。同時に、突発的な環境課題にも迅速に対応できるよう、プログラム内の意思決定体制の透明性向上と機動的な研究推進体制の整備を進めます。
	大学・省庁・自治体・海外機関との連携を拡大し、研究成果の国際展開と社会実装を加速することを期待する。	国内外の連携は研究成果の社会実装と国際展開に不可欠と認識しております。共同研究、データ共有、政策対話の場の拡充を通じ、研究成果の国際的発信と社会還元を一層推進してまいります。
	国内外の新たな災害や環境問題が生じるたびに環境研究としてNIESが引き受ける仕事が増え、業務量が多くなっていることが懸念される。研究経費の確保、研究人員の増強について、引き	研究の質を維持するため、外部資金の獲得、共同研究の推進、人材育成・確保を継続的に進めるとともに、持続可能な研究体制の構築に努めてまいります。

	続き求めていってほしい。	
	統合型研究プログラム3において、(1)残留性・移動性の高い媒体横断物質、(2)プラスチックおよびその添加剤、(3)薬剤耐性菌および抗微生物剤を「3つの新たな脅威」と位置付けられたことは、関連分野の研究において大きな方向性が示されたものと思うが、大学含めて関連機関へアピールしていただくことも含めて、関連研究が活発化することを期待したい。	ご指摘の様に対象や目標が明確になる一方で、当研究所だけで対応できるテーマではなく、環境研究総合推進費などで大学など所外の関連機関の研究者との共同が必要であり、相乗作用をはかるべく研究を推進して関連研究の活発化をはかります。また、特にPFAS等について環境媒体ごとの研究を総合定期と一緒に進めていければと思います。
	自然再興とNbSは非常に関連性が強いと思われるため、統合型プログラム間の連携も重要である。	自然再興とNbSをはじめ、統合型プログラムの間で関連性が強い部分については、有機的な連携と情報共有を図り、相乗効果を引き出しながら推進してまいります。